第 41 号　2023/3/9

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

# 大地震での助け合い

## 「トルコを救いたい」という日本人の多くの声

日本とトルコ。両国はどのようにして信頼を築いたのか。その関係の深さがわかる 3 つの出来事がある。日本とトルコの関係は、19 世紀末までさかのぼる。1890 年、日本との平等条約の促進や小松宮彰仁親王殿下のトルコ訪問に対する返礼などの目的で東京に来ていたトルコの使節団が、和歌山県沖で台風に遭遇して大事故となった。和歌山県の大島の島民は、事故で海に投げ出された船員を不眠不休で捜索したり、引き上げたり、介護したりしたそうだ。2 つ目は、1985 年のイラン・イラク戦争での日本人の救出である。当時のイラク大統領は、イラン上空を通る飛行機を無差別に撃退すると宣言し、多くの日本人がイランに取り残された。日本政府が救援策を打ち出せず悩んでいる中で、危険を顧みず日本人を助けに行ったのがトルコだった。「エルトゥールル号の時に受けた恩を返す」との思いで日本人を助けに向かったそうだ。1999 年、トルコ北西部で地震が起こった際、最も迅速で包括的な支援を行った国の 1 つが日本だった。トルコはその恩を返すために、2011 年の東日本大震災では合計で 32 名の方が日本を訪れ、約 3 週間の間、主に行方不明者の捜索を行った。

日本とトルコは、一方が困っているときにはもう一方が助けてきたのである。

「一人でも多く」氷点下での日本からの救援活動

トルコのアート作品で募金活動(東京都港区)

東日本大震災のとき、多くの国からの支援がありました。私も当時、地元の宮城にいて外国からの救援の方を見かけるたびに涙がにじみ出てきたことを覚えています。KOMABA でこれまで何度も講演をしていただいている「ちょんまげ隊・ツンさん」は、震災から 12 年が経った今も、その当時支援をしてくれた海外の方にお礼を伝える、という活動をしています。私たちとの出会いも、その活動の支援を通してでした。

災害による悲しみや苦しみにどのように寄り添うのか、力になるのか、思考するのか・・・阪神淡路大震災と東日本大震災を通して今を生きる私たちは多くを学んでいます。今回の塾での支援活動にも多くの方からご賛同とご協力をいただいており、頭が下がる思いでいます。ここで学ぶ子どもたちにとっても決して他人事ではない自然災害について、KOMABA ではこれまでもこれからも生きるための学びとして伝えていきます。（石川）